

バレエ解剖学が必要なわけ...

普段は実践ばかりでのお稽古になってしまいがちなので、せつかくのこの機会にバレエ解剖学について少々...。みなさんはどのようなきっかけでバレエをはじめられましたか?バレエのどんなところに魅力を感じているのでしょうか? 観るのと実際に自分がお稽古するのとではその時点で大きく2つに分かれます。

お稽古を始めるとなると知らない事や意外な事ばかりで自分の思っていた事とはずいぶん違うものだなと感じている生徒さんも多いのではないのでしょうか。

バレエは芸術ですが身体を鍛え基礎となる正確な技術を身につけるというアスリートに近い部分が大半を占めます。スポーツはその技術を使って記録を出すもの。バレエはその技術を使ってどこまでもの表現を追求するもの。単純に言えばここが大きく違うものかと思いますが、数ある芸術の中でもバレエの技術はかなり過酷なのでうっかりすると技術習得で終わってしまう危険があります。

基礎的技術と高度な技術を舞台上で披露することにとどまってしまう、表現までたどり着かないまま足踏みをしたり、あるいは勘違いをして満足してしまったりと、それくらい身体と心を酷使するものです。いつも心に表現に対する高い意識を持っていないといつものまにかアスリート寄りの考えになってしまう危険があります⇒バレエコンクールが良い例だと思います。技術に対する点数が主なので、高い点数をつけられればそれで何かを達成した事になってしまう危険があります。しかし自分の表現の幅や奥行きをどこまでも追及するにはボキャブラリー(技術)がより豊富で正確であるに越したことはありません。英語圏に行って何かを成し遂げようとするればより深く英語をマスターして自分の表現の幅や行動範囲広げようとするはずですし、世界中を駆け回って活躍しようと思えば英語以外の言葉も十分に勉強しようとなるはずです。バレエも同じで、よりお客様に自分を伝えようとするには少なくとも正しい技術(ターンアウト、ひきあげやつま先の技術)、そしてもしかしたら高度な技術(沢山回転したり、高く飛んだり、高く足を挙げたり)も必要になってくるかもしれません。バレエ解剖学を学ぶことで、自分の身体の仕組みを知り、その理にかなった使い方を知り習得する事でより深く自分を表現する事に繋がっていきます。一方、芸術は「自由」ですから型にとらわれずに心のままをフリーに表現する事もありますが、あくまでもクラシックバレエと言う伝統芸術は「型」です。この「型」を使って自分を表現するというのは簡単にできる事ではなく長い年月と深い心なくしては成しえない高尚なものです。「型破り」は「型」を習得した人のみに使えることです。人前で自分を表現し感動を与えられるという事はとても幸せな事だと思います。この志を持つことに垣根はありません。どんなに小さな子供でも、表現に対する意欲は生まれながらにしてあるものです。毎日毎日お家の方にたくさんおしゃべりしますよね? クラシックバレエと言うツールを使って表現する事はとても高い山ですが、だからこそ貪欲に取り組めるものだと思います。

では バレエ解剖学ってどんなもの? 難しかったら嫌だな... まあまあそういわずに次回をお楽しみに。